

紙面を作って印刷、発行するのが新聞社の仕事です。現在では、紙に印刷するだけでなく、インターネット版も出していますが、時代がどう変わろうとも、記者が足を使って取材し、記事を書くことには変わりがないでしょう。

ところで、「新聞を発行しない新聞社」とも言えるのが通信社です。第二版が最近発行された「大辞泉」(小学館)には次のように書かれています。「ニュースを取材し、新聞社・放送局・雑誌社などに提供する会社。米国のAPやUPI、英国のロイター、ロシアのイタルタス、中国の新華社、日本の共同通信社など」。ほかにも、主な通信社として、フランスのAFP、日本の時事通信などがあります。

国際面などの外国の写真で、説明文の末尾に「=ロイター」「=AP」「=AFP」などと書かれているのを見かけることがあります。海外のスポーツ記事で、「(時事)」とクレジットの入っているものもあります。朝日新聞は海外に5つの総局と29の支局を持っており、ここを拠点とする特派員らから記事が送られてきますが、全世界のニュースを取材するには限界があり、通信社の配信を利用することがあるのです。

地方紙の場合は、国内のニュースでも通信社の配信記事を使うことがあります。配信記事の掲載が多いのも地方紙の特徴といえるでしょう。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)